

令和7年度 学校経営の基本構想（グランドデザイン）Ver2.3

つくば市立小野川小学校

本県の教育目標	茨城県学校教育指導方針
ひとりひとりの能力を開発し 豊かな人間性をつちかう じょうぶな身体をつくり たくましい心を養う 郷土を愛し 協力しあう心を育てる	第2次 茨城県総合計画（2022～2025年） 基本理念 『活力があり、県民が日本一幸せな県』 Ⅲ「新しい人材育成」 茨城県の未来をつくる「人財」を育て、日本一子どもを産み育てやすい県を目指す 政策Ⅱ次世代を担う「人財」Ⅱ魅力ある教育環境 Ⅳ学び・文化・スポーツ・遊びを楽しむ茨城Ⅳ自分らしく輝ける社会

本市が目指す学校像 ☆みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園

洞峰学園教育目標 夢や希望をもち、未来に向かってたくましく生きる児童・生徒の育成
～「学びをつなぐ」×「人をつなぐ」小中一貫教育を通して

学校教育目標 自ら学び、心豊かな、たくましい児童の育成

組織目標 一人ひとりを大切にし、自ら行動できる児童を育成する学校づくり

望ましい集団をつくり、自ら考え、自ら行動する教育活動の展開 やりがいと働き方のバランスを大切にする組織

教育大綱に基づいた教育活動 +α

◎教えから学びへ 「教わる」から「学ぶ」への転換

- ・児童の活動が主となる授業
- 児童が考え、話し合い、判断し、活動する授業
- 実体験を大切にする学び
- 一斉・一方向教育から個別・双方向の学び
- ・学ぶ意欲を高める手立て
- 児童がワクワクとモヤモヤを繰り返す探究的で楽しい授業を準備し展開する
- 教材、学習課題、資料、学習過程の工夫

◎管理から自己決定へ 「自分で決めるから自分の行動に責任がもてる」

- ・（自己決定の場の提供）
- 自ら考え、選択し、決定する、あるいは発表する、制作する等の体験の重視
- 特別活動での実践
- ・管理意識の転換
- 自己決定は自己責任につながる、その繰り返しが自立につながる
- 当事者意識を醸成する

◎認知能力偏重から非認知能力の再認識へ 「やる気」「最後までやり抜く気概」「リーダーシップ」「協調性」等

- ・非認知能力を涵養するための「教師の見取りとフィードバック」「授業、学校行事、特活など」
- 学校行事や学級活動、児童会活動等の特別活動、学習活動で伸ばす非認知能力
- 行事を通した自治活動の実践

○（自己存在感の感受） 「自分も一人の人間として大切にされている」

- ・（共感的な人間関係の育成）
- 認め合い・励まし合い・支え合える学習集団
- 個の特性を見取る
- ・学級経営の充実
- 楽しいから学校に来る
- 友達がいるから楽しい
- 学級が望ましい集団となっている

○心身ともにたくましい健康な児童の育成

- ・自己管理能力の育成を基盤とした健康、安全教育の実践
- 教育相談の実施
- 個の特性の適切な見取り

○教職員の資質向上

- ・職員の自発的な研修の実践
- 信頼される教職員であるために服務規律の確保を図る

○安心、安全な学校づくり（安心・安全な風土の醸成）

- ・当事者意識を高めるコンプライアンス研修の実施
- ・計画的な安全点検の実施
- 人権意識の高揚

コミュニティ・スクールとの連携

◎地域と共にある学校 ◎熟議

- 「子供は地域の担い手」
- 地域が求める資質・能力を共有する

やりがいと働き方のバランス

◎自発性を大切にする ◎支持的な職場環境

- 職員のアイデアを生かす職場
- お互い様の意識
- 量的・心的負担の軽減を図る

達成状況の評価 ・単元テスト・県学力診断のためのテスト・全国学力学習状況調査・学校評価アンケート
・キャリアパスポートの記述・教育相談・学校生活アンケート・体力テスト 等